

発刊にあたって

淑徳大学学長 長谷川 匡俊

このたび、2005（平成17）年度版「淑徳大学年報」を発刊する運びとなりました。本年度は大学改革3年目にあたり、既設2学部の教育課程再編と大学として新たな事業計画の策定に踏み出した年でもあります。

この年「平成19年度 新生淑徳」を打ち出し、そのキーワードとして「福祉の淑徳」を掲げました。その理由は、建学の精神の発露、福祉系単科大学としての創設以来40年に及ぶ福祉専門職者育成の実績と伝統、時代のニーズ、淑徳の強みを生かすこと等によるものです。それを象徴するのが1992（平成4）年度以来の社会学部の名称を本年度から総合福祉学部に変更したことです。

新規事業としては、第一に、前年度申請した社会福祉現場実習教育の拠点施設（特別養護老人ホーム「淑徳共生苑」）の設置認可が下り、10月には建築に着手しました。第二に、やはり前年度から将来構想として描いていた看護系学部の設置計画を本格的にスタートさせたことです。いずれも「福祉の淑徳」の広がりや質の強化を促進させるための事業であって、平成19年度の開設をめざしています。このほか地域支援ボランティアセンターの設置、千葉市の補助事業で白旗商店街の空き店舗を利用した商学連携「マッシュルーム」（地域の児童・高齢者交流事業）の開設など、まだ緒についたばかりですが、これまでにない地域貢献活動に途を開きました。

なお本年度は開学40周年にあたり、11月3日、創立以来の教職員・卒業生物故者追悼法要、記念式典・シンポジウム、第一回ホームカミングデーが開催されました。本学がめざすこれからの方向について、改めて卒業生の皆さんに語りかけるよい機会となりました。

自己点検・評価事業の一環である、4年に一度の「学生生活実態調査」が実施されたのも本年度で、先年からの学生サービス向上改革につなげることは次年度以降の課題となりました。

おわりに、本書の執筆・編集を担当された役職者並びに大学自己点検・評価委員会の各位に感謝の意を表します。